

健康への食育講座(10) 一学校・家庭・地域における食育―

| メタデータ | 言語: jpn |
|-------|----------------------------------|
| | 出版者: |
| | 公開日: 2009-11-27 |
| | キーワード (Ja): |
| | キーワード (En): |
| | 作成者: 戎, 利光 |
| | メールアドレス: |
| | 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10098/2246 |

健康への

計画

連載 第10回

おける食育学校・家庭・地域に

ったりなどと、広範囲に渡る食育を効率的に進める為にも、関係をしっかり築いたり、豊かな食文化の継承や発展を図をの問題などを改善したり、食の消費者と生産者との信頼なると考えられていて、栄養の偏り、不規則な食事、肥満食育は生きる上での基本で、知育・徳育・体育の基礎に食育は生きる上での基本で、知育・徳育・体育の基礎に

とは、副菜なら副菜だけを食べ終えて、次に主菜に移り主本誌「学校の食事」第38巻第3号(特集:「ばっかり食べい要性を強く感じました。ご存知のとおり、ばっかり食べい要性を強く感じました。ご存知のとおり、ばっかり食事」第38巻第3号(特集:「ばっかり食学校・家庭・地域の連携は大切だと思います。

と思います。

おかしければ注意をし、その場で箸の使い方を親が教えるをしていれば、子どもが箸を使っている様子に親が気づき、がいるということです。しかし、家族で食卓を囲んで食事なく、親指と人差し指だけで2本の箸を挟んでいる子どもています。具体的には、中指と人差し指で箸を挟むのでは

最近、子どもが上手に箸を使えないのは、

箸を上手に持てない子どもが多いことも、よく指摘され

すが、 とのできる家庭での食育は、非常に有効だと思います ると思います。つまり、その場でその話題を取り上げるこ かり食べが食卓の話題に出れば、ばっかり食べは改善され が子に親はきっと注意をするでしょう。 菜を食べ終えて、主食を食べ終わるというような食べ 親子が一緒に食事をしていれば、 **'学習講座** 、教育学博士・医学博士) 教授 或いは、そのば ばっかり食べの 戎 利光 方 0 わ

卓は食育の場として素晴らしい機能を果たすと思います。持ち方」に関して、学校新聞などで家庭に啓蒙すれば、食語っています。そして、学校が「ばっかり食べ」や「箸の思います。学校だけではなく、家庭での食育の大切さを物家団欒の食事風景が少なくなったことが原因の1つだとも

きいでしょう。
をいでしょう。
をいでしょう。
をいでしょう。
をが、子どもは習い事や塾などで忙しくなり、親は仕事といでしょう。
をが、子どもは習い事や塾などで忙しくなり、親は仕事といでしょう。
をが、子どもは習い事や塾などで忙しくなり、親は仕事といでしょう。
をがでしょう。
をが、子どもは習い事や塾などで忙しくなり、親は仕事といでしょう。

地域がまとまった活動の一例です。その「ふくい・くらしいにうまく連携していければ、食育の効果は倍増するでしいにうまく連携していければ、食育の効果は倍増するでしいだっまく連携していければ、食育の効果は倍増するでしいだうまく連携していければ、食育の効果は倍増するでしいだがまとまった活動の一例です。その「ふくい・くらしの研究所」)があります。具体的には、保護者や子どもを対象とした地域の料理教室をはじめ、講保護者や子どもを対象とした地域の料理教室をはじめ、講保護者や子どもを対象とした地域の料理教室をはじめ、講保護者や子どもを対象とした地域の料理教室をはじめ、講像会に、地域の活動が加わり、それらがお互くの学校と家庭に、地域の活動が加わり、それらがお互との学校と家庭に、地域の活動が加わり、それらがお互

関連があるというものですが、食事中の会話の大切さが浮き行く」「米を洗ってご飯を炊く」「後片づけをする」の頻度と康の話が出る」頻度が、女子では「普段の食料品の買い物にけるような結果があります。それは、「食事中に食べ物や健生活に関する研究報告書、2006)には、そのことを裏付の研究所」が過去に取り組んだ研究(平成17年度子どもの食の研究所」が過去に取り組んだ研究(平成17年度子どもの食

彫りになりました。

本誌第39巻第12号(2006)「健康への食育講座(開講本誌第39巻第12号(2006)「健康への食育講座(開講本誌第39巻第12号(2006)「健康への食育講座(開講本誌第39巻第12号(2006)「健康への食育講座(開講本誌第39巻第12号(2006)「健康への食育講座(開講本誌第39巻第12号(2006)「健康への食育講座(開講本誌第39巻第12号(2006)

素晴らしいと思います。 素晴らしいと思います。 素晴らしいと思います。 ます。このお互いの連携は、食育以外の問題をも解決する糸ます。 このお互いの連携は、食育以外の問題をも解決する糸最初は試行錯誤しながらでも、後にはスムーズに進むと思いがリーダーシップを発揮すれば、学校・家庭・地域の連携ががリーダーシップを発揮すれば、学校・家庭・地域の連携が

いただきたいと思います。 学校・家庭・地域が連携して、ぜひ実践的な食育を進めて